日本体育協会スポーツ憲章

日本体育協会は、かねてから検討中であったアマチュア規定の改定につき5月7日の理事会で決定、「日本体育協会スポーツ憲章」として改正・施行することとした。

この憲章は、財団法人日本体育協会（以下「本会」という）の目的とするアマチュア・スポーツ発展のための精神を基調とし、これに基づく本会加名団体の使命並びに本会の加盟競技団体における競技者規定等を定めるための基準を示したものである。

斎藤会長、経団連会長に

日本ハンドボール協会会長の斎藤英四郎氏（74歳）が、第7代目経団連会長に選ばれた。

斎藤会長は、昭和52年4月に日本ハンドボール協会会長に就任、爾来9年間、日本ハンドボール界の中心となって活躍されているが、これで日本経済界の舵取り役として、その活躍がますます期待される。

第1条　スポーツの意義と目的

スポーツは、人々が楽しみ、よりよく生きるために、自ら行う自由な身体活動である。さわやかな環境の中で行われるスポーツは、豊かな生活と文化の向上に役立つものとなろう。

スポーツをする人は、美しいスポーツマンシップが生まれることを求め、健康な身体をはぐくむことを目的とする。

第2条　アマチュア・スポーツマンのあり方

○スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
○競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレーに終始する。
○常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
○スポーツを行うことによって、自ら物質的利益を求めない。
○スポーツによって得た名声を、自ら利用しない。

第3条　加盟団体の使命

本会加盟団体は、この憲章の趣旨を体して、アマチュア・スポーツの健全な普及・発展をはからなければならない。

第4条　憲章の適用

この憲章は、本会加盟団体に対して適用されるものである。なお、本会の加盟競技団体の登録競技者に対する規程は、当該団体がその責任において設けるものとする。

第5条　競技者規程の制定

本会の加盟競技団体は、この憲章に基づき独自の競技者規程を制定するとともに、その規定を本会に届け出なければならない。

第6条　加盟団体の役員

本会加盟団体の役員は、常に品位と名誉を重んじ、競技者の模範となるよう行動しなければならない。

付　則　この憲章は、「アマチュア・スポーツのあり方」及び「日本体育協会アマチュア規定（昭和22年4月2日施行、昭和32年12月4日第1次改正、昭和46年1月1日第2次改正）」をもとに改正し、昭和61年5月7日から施行する。

第27回全日本実業団選手権〈女子の部〉

日立栃木が初優勝

4月25日～27日／愛知県体育館

第27回全日本実業団選手権大会女子の部は、4月25日から27日までの3日間、愛知県体育館に12チームが参加して開催された。

決勝戦は、日立栃木対立石電機山鹿の顔合わせとなり、後半逆転した日立栃木が、今大会初の優勝を飾った。

▼1回戦

大和銀行（大阪）21〔8―3 13―9〕12 **ソニー国分**（鹿児島）

○…前半は両チームともミスの連続。ソニー国分は大和銀行の高いディフェンスに阻まれ、得点することが出来ず。対する大和銀行は、GK高浜の好守で……といったゲーム。

後半、ソニーは宮原のポストシュートを足がかりに3連続得点、大和に迫ったが、丸田を中心にロングシュート、ポストプレーで冴えを見せる大和銀行が、21―12で勝利を収めた。（橋本、大野）

得	〔大和〕		〔ソニー〕	得
0	高浜	GK	阿多石	0
0	坂口	GK	江崎	0
4	丸田	FP	光瀬	0
4	上西	FP	宮原	2
1	赤瀬	FP	久木田	1
4	佐々木	FP	馬渡	4
2	植田	FP	崎元	0
1	天谷	FP	山口	2
0	前田	FP	藤元	3
4	上村	FP	楠本	0
0	藤本	FP	塘	0
1	小池	FP	斜木	0
21	(3)	PT	(1)	12

（審・日比、川合）

日立栃木（栃木）25〔14―7 11―10〕17 **シャトレーゼ**（山梨）

○…前半、速攻、セット攻撃とそつのない日立に対しシャトレーゼはオーバーステップミスが多く自滅。また、ディフェンスからオフェンスの切替えも遅くもたつくシャトレーゼであった。

後半。ミスも減り、セット攻撃で追い上げたシャトレーゼだが、ラスト5分、速攻で突き放した日立の勝利であった。（江口）

得	〔日立〕		〔シャト〕	得
0	葛生	GK	丸山	0
0	岡本	GK	渋谷	0
4	手打	FP	渡辺	0
7	前田	FP	嶋崎	5
3	清水	FP	海道	8
8	井沢	FP	松沢	1
1	吉田	FP	春山	1
2	山岸	FP	百瀬	2
0	尾苗	FP	武田	0
0	菅原	FP	平田	0
0	中村	FP	成島	0
0	神永	FP	小林	0
25	(0)	PT	(2)	17

（審・吉田、細沢）

東京重機（東京）21〔15―8 6―10〕18 **北国銀行**（石川）

○…試合開始から両チームとも速い攻撃でスピーディなゲーム展開となったが、北国の細かいミスにつけ込んで前半10分過ぎからジリジリと重機がリード、高さと粘りの強いディフェンスで北国のミスを誘い重機速攻陣が活躍、15―8で前半を終了。

後半、北国もやっとエンジンがかかり、10分過ぎには3点差まで詰め寄ったが、ここで北国の中川、塙が連続退場、そのまま重機が突き放し、21―18で勝利を飾った。

重機の堅いディフェンスと足が光った一戦だった。（川路）

得	〔重機〕		〔北国〕	得
0	石井	GK	辻	0
0	大角	GK	川北	0
2	山崎	FP	中川	6
6	市川	FP	林	1
0	大川	FP	丹後	0
0	嶋田	FP	中田	2
0	伊原	FP	松下	6
6	古谷	FP	荒	1
5	大林	FP	藤田	0
0	熊谷	FP	高木	0
2	谷田	FP	北川	0
0	星	FP	川崎	2
21	(1)	PT	(4)	18

（審・日比、川合）

日本ビクター（茨城）〔9―9 13―5〕14 **ムネカタ**（福島）

○…前半、GKを含めた好守により両者互角の試合内容であった。大型チームのビクターに対し、ムネカタはポストプレーを含めた多彩な攻撃で対抗し、同点で折り返した。しかし、ビクターは後半開始後、速攻、ロングシュートがよく決まり、点差を一気に開いた。その後ムネカタもよく頑張ったが、追いつくことが出来ず、ビクターのペースで進みタイムアップとなった。ビクターは、大型チームにもかかわらず巧守のチームであった。（記入者不明）

得	〔日ビ〕		〔ムネ〕	得
0	渡辺	GK	遠藤	0
0	小口	GK	我妻	0
3	中根	FP	藤谷	1
1	武藤	FP	櫛引	0
2	遠藤	FP	吉田	2
7	長田	FP	小林	6
5	下條	FP	酒井	2
1	根本	FP	和知	1
0	太田	FP	田村	0
2	平松	FP	太田	0
1	工藤	FP	佐藤	2
0	松井	FP	川名	0
22	(3)	PT	(1)	14

（審・吉田、細沢）

▼2回戦

大崎電気（埼玉）28〔14―14 14―11〕25 **大和鉄行**

○…前半、大和は動きが良く、丸田、赤瀬のロングシュートがよく決まる。これに対し、大崎は最初歯車がかみ合わず、大和にリードされるが、李を中心に盛り返し14―14の同点で前半を終わる。

後半、最初大崎が5点差をつけそのまま逃げ切った。（清水）

得	〔大崎〕		〔大和〕	得
0	大西	GK	高浜	0
0	梅野	GK	増見	0
3	時實	FP	丸田	8
3	松尾	FP	上西	2
0	塩谷	FP	赤瀬	7
3	石井	FP	佐々木	2
7	沖山	FP	植田	3
2	徳渕	FP	天谷	0
0	西村	FP	前田	0
0	須永	FP	畏川	0
1	金玉花	FP	上村	3
9	李相玉	FP	藤本	0
28	(1)	PT	(1)	25

（審・夏目、松ヶ谷）

日立栃木23〔12―10 11―12〕22 **ジャスコ**（三重）

○…開始早々ジャスコがペースをつかみ4点を先取した。しかし、中盤に入ると日立もペースを取り戻し、ジリジリと点差を詰める。そして20分を過ぎると、日立は得意のロングシュートが決まり出し、12―10と逆転して前半を終了。

後半、最初は互角の戦いぶりで前半のリードを日立が守る形とな

得	〔日立〕		〔ジャ〕	得
0	葛生	GK	木村	0
0	岡本	GK	小深田	0
5	手打	FP	寺沢	8
5	前田	FP	石田	0
0	清水	FP	近藤	5
5	井沢	FP	鷲野	3
0	吉田	FP	服部	2
8	山岸	FP	高岡	2
0	尾苗	FP	石田	2
0	石毛	FP	寺西	0
0	菅原	FP	池田	0
0	中村	FP	常石	0
23	(0)	PT	(2)	22

（審・上久保、北井）

ったが、中盤にはジャスコが追い上げ逆転した。終盤になるとますます激しい戦いとなりシーソーゲームを展開したが、日立のGK葛生の好守が光り、日立が再逆転してジャスコをふり切った。（富田）

ブラザー工業（愛知）21 〔13―9／8―8〕 17 東京重機

○…ブラザーは、エース小池のロングシュートを中心にサイド久保田、ロング荒木と得点を重ね、GK大藪の好守もあり、前半13―9と点差を広げた。東京重機は、立ち上がりのシュートミスが響いたが、10分後サイド古谷の速攻とロング市川のシュートが決まり、GK石井の好守もあったが、今一つムードが悪かった。

後半立ち上がり、重機はGK石井からサイド古谷への連続速攻などで後半14分で1点差まで縮めたが、残り10分でミスが出始めた。ブラザーは前半と違いミスが目立ったが、残り5分から相手のミスをきっかけに得点をあげ、逃げ切った。（記入者不明）

得 0 0 3 7 1 1 0 4 1 0 0 0
〔重機〕 井 角 崎 川 川 田 原 谷 林 谷 田
石 大 山 市 大 嶋 伊 古 大 熊 矢 星
GK　FP　〔審・夏目 松ヶ谷〕
〔ブエ〕 添 籔 木 池 山 村 上 田 田 山 倉 保
畑 大 荒 小 茂 中 道 太 久保 奥 坂 大久
得 0 0 3 3 0 2 0 0 13 0 0 0

21 (4) PT (1) 17

立石電機山鹿（熊本）26 〔15―10／11―10〕 20 日本ビクター

○…前半立ち上がり、立石はディフェンスに甘さが見られ、ビクターにリードを許したが、中盤から野嶋、山内のシュートが決まり出して波に乗り、速攻も出るようになり点差を広げた。また、立石GK荒木は、ペナルティースロー3本を連続して止めるなど好守が目立った。

後半に入り、前半の終盤頃からやっとエンジンがかかり始めたビクターが一時同点に追いついたが終了間際、地力に勝る立石がビクターの細いミスにつけ込み点差を広げ、26―20で勝った。（杁）

得 0 0 3 3 2 3 6 3 0 0 0 0
〔日ビ〕 辺 口 根 藤 藤 田 條 本 田 松 岡 藤
渡 小 中 武 遠 長 下 根 太 平 永 工
GK　FP　〔審・北井 上久保〕
〔立石〕 木 下 口 藤 口 村 上 嶋 内 田 家 津
荒 竹 山 近 江 岩 池 野 山 横 福 武
得 0 0 0 6 2 0 3 11 4 0 0 0

20 (3) PT (2) 26

▼順位決定1回戦

ソニー国分 15 〔9―7／6―7〕 14 北国銀行

○…前半立ち上がり、両チームともミスが目立ち、北国はソニーの固いディフェンスを攻めあぐみ、逆にソニーは速攻で点を重ねた。15分過ぎにソニーの鈴木が退場したが、北国はこのチャンスを生かすことが出来ずに、逆にソニーが点差を広げた。しかし、前半残り時間も少なくなってから、ソニーは思うようにセット攻撃が決まらず、北国に点差を縮められてしまった。

後半が始まって7分過ぎ、攻め手のないソニーに北国が追いつき一進一退の攻防がつづいた。残り1分にソニーがペナルティーを決めてそのまま逃げ切った。（平野）

得 0 0 4 2 1 2 1 0 0 0 0 4
〔北国〕 辻 北川 林 後田下 荒 木川 塙 崎
川 中 丹 中 松 高 北 川
GK　FP　〔審・松ヶ谷 夏目〕
〔ソニー〕 石 崎 木 瀬 原 田 渡 元 郷 口 元 本
多 木
阿 江 斜 光 宮 久 馬 崎 東 山 藤 楠
得 0 0 0 0 3 1 5 1 0 1 4 0

14 (1) PT (2) 15

シャトレーゼ 20 〔10―10／10―7〕 17 ムネカタ

○…前半は、海道選手などの活躍によりシャトレーゼの一方的な試合と思われたが、ムネカタもディフェンス、オフェンスとも粘りを見せ、前半は10―10のタイに持ち込んだ。

後半は、前半同様海道選手の高いロングシュートが決まり、他の選手も動きが良くなり、点差が開き始めた。ムネカタの方は、シャトレーゼの高いディフェンスを攻めあぐみ、点を増やすことが出来なかった。しかし、後半途中、シャトレーゼの2回の退場をきっかけにペースをつかみ、徐々に点数を返していったが、結局勝つには至らなかった。（天草）

得 0 0 1 1 6 3 0 0 0 0 5 1
〔ムネ〕 藤 妻 谷 田 林 井 知 川 村 田 藤 名
遠 我 藤 吉 小 酒 和 皆 田 太 佐 川
GK　FP　〔審・細田 若沢〕
〔シャ〕 山 谷 辺 崎 道 沢 山 村 瀬 田 田 林
丸 渋 渡 嶋 海 松 春 田 百 武 平 小
得 0 0 1 2 8 4 0 0 1 0 4 0

17 (3) PT (3) 20

▼同2回戦

大和銀行15 〔10―4／5―10〕 14 東京重機

○…開始直後両チームともミスが多く、特に重機はパスミス、キャッチミスなどが多く、また、ディフェンスが悪く、ペナルティーをよくとられていた。これに対し大和は、ペナルティー、速攻などを着実に決めて点差を広げていった。

重機も市川などがシュートを狙うが、大和の厚いディフェンスに阻まれて得点が出来ない。

後半、前半はあまり決まらなかった重機のロングシュートが決まり得点を重ねた。それから両チームのGKがよく守り、点があまり入らなくなったが、15分過ぎから重機の動きが良くなり、少しずつ点差を縮めていったが、1点差で辛くも大和が逃げ切った。（平野）

	〔重機〕	得
GK	石井	0
GK	大角	0
FP	山崎	1
FP	市川	4
FP	大川	1
FP	嶋田	0
FP	伊原	0
FP	古谷	2
FP	大林	5
FP	熊谷	0
FP	谷田	1
FP	星	0
PT	(1)	14

（審・日比、川合）

	〔大和〕	得
GK	高浜	0
GK	増見	0
FP	丸田	1
FP	上西	5
FP	赤瀬	1
FP	佐々木	2
FP	植田	1
FP	天谷	0
FP	前田	0
FP	上村	5
FP	藤本	0
PT	(4)	15

ジャスコ 20（10−7, 10−10）17 日本ビクター

○…前半立ち上がり両チームともに堅さが目立ち、シュートミスが多かった。以後一進一退の攻防がつづいたが、前半終了間際、ジャスコが3連続得点で9−6と差を広げ、前半10−7で終了。

後半、ビクターはキャプテン武藤を中心として多彩な攻撃でジャスコをおびやかしたが、ジャスコGK小深田に肝心なところで好守され、20−17でジャスコが逃げ切った。（大川）

	〔日ビ〕	得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	中根	1
FP	武藤	1
FP	遠藤	1
FP	長田	4
FP	下條	3
FP	根本	1
FP	太田	3
FP	平松	0
FP	工藤	2
FP	松井	0
PT	(1)	17

（審・上久保、北井）

	〔ジャ〕	得
GK	木村	0
GK	小深田	0
FP	寺沢	3
FP	石田	3
FP	近藤	8
FP	鷲野	2
FP	服部	1
FP	高岡	0
FP	石田	2
FP	寺西	0
FP	池田	1
FP	常石	0
PT	(6)	20

▼準決勝

日立栃木 26（12−12, 14−10）22 大崎電気

○…立ち上がりから李相玉のパワフルなプレーを中心とした攻撃力で得点を重ねる大崎電気に対し日立栃木も全員がよく動き、一進一退の好ゲームとなった。

後半の中盤過ぎから日立はディフェンスを固め、大崎の攻撃をよく食い止めると共にチャンスを確実に得点するパターンで、残り10分には4点差とする。大崎も必死に反撃するものの、日立の厚みのある防御を崩すまでには至らなかった。（村上）

	〔大崎〕	得
GK	大西	0
GK	梅野	0
FP	時實	1
FP	松尾	2
FP	石井	3
FP	沖山	0
FP	徳渕	5
FP	西村	0
FP	須永	0
FP	金玉花	5
FP	李相玉	6
FP	米山	0
PT	(3)	22

（審・日比、川合）

	〔日立〕	得
GK	葛生	0
GK	岡本	0
FP	手打	2
FP	前田	5
FP	清水	1
FP	井沢	6
FP	吉田	4
FP	山岸	3
FP	尾苗	5
FP	山口	0
FP	菅原	0
FP	中村	0
PT	(2)	26

立石電機山鹿 26（12−10, 14−14）24 ブラザー工業

○…両チームとも固いディフェンスで8分まで1−1の最少得点で経過した。中盤はブラザー・小池のロング、立石・野嶋のスタンディングなど両エースの活躍で好試合を展開。前半残り2分、立石は早いパス回しでブラザーのディフェンスを揺さぶり、2連続得点をあげ2点リードで前半を終了。

後半、滑り出しブラザーの2連続得点で再度同点。互いに確実なプレーで加点していき1点を争うシーソーゲームが終了2分前まで続いた。終了間際、立石・江口の均衡を破るサイドシュート、更に速攻で連続得点しブラザーを引き離した。

双方の堅いディフェンスが光った好試合であった。（不明）

	〔ブエ〕	得
GK	畑添	0
GK	大藪	0
FP	荒木	4
FP	小池	5
FP	茂山	3
FP	中村	1
FP	道上	2
FP	太田	0
FP	久保田	5
FP	奥山	2
FP	坂倉	2
FP	大久保	0
PT	(1)	24

（審・上久保、北井）

	〔立石〕	得
GK	荒木	0
GK	岡本	0
FP	山口	0
FP	近藤	2
FP	江口	3
FP	岩村	2
FP	池上	6
FP	野嶋	12
FP	山内	1
FP	横田	0
FP	福家	0
FP	武津	0
PT	(1)	21

▼11位決定戦

ムネカタ 19（9−8, 10−10）18 北国銀行

○…前半、立ち上がりから両チーム共動きが固く、シュートミスが目立った。

後半の始め、北国・中川のロングシュートが決まりはじめ、一時はムネカタを逆転したが、ムネカタも全員がよく動き、得点を重ねていった。終盤、ムネカタに退場者が出て北国も必死に反撃するが得点を重ねることが出来なかった。（朝生）

	〔北国〕	得
GK	辻	0
GK	川北	0
FP	中川	8
FP	林	3
FP	丹後	2
FP	中田	2
FP	松下	2
FP	荒	0
FP	高木	0
FP	北川	0
FP	塙	0
FP	川崎	1
PT	(1)	18

（審・細沢、板倉）

	〔ムネ〕	得
GK	遠藤	0
GK	我妻	0
FP	藤谷	0
FP	吉田	8
FP	小林	7
FP	酒井	2
FP	和知	0
FP	皆川	0
FP	田村	0
FP	太田	0
FP	佐藤	2
FP	川名	0
PT	(3)	19

▼9位決定戦

シャトレーゼ 30（16−9, 14−10）19 ソニー国分

○…開始10分間、両チームともミスが多く、ペースがつかめていなかった。しかしシャトレーゼは、嶋崎を中心としたポストプレーが出始め、リズムに乗った。ソニー国分はミスが多く、シャトレーゼの加点を防ぐことはできなかった。

後半の立ち上がり、シャトレーゼのミスが目立ちソニーが加点したが、シャトレーゼ嶋崎のロング、渡辺とのコンビプレーでリズムを取り戻し圧勝した。

ソニー国分はミスが多く、最後までリズムに乗れなかった。（横山）

	〔ソニー〕	得
GK	阿多石	0
GK	江崎	0
FP	斜木	1
FP	光瀬	1
FP	宮原	0
FP	久木田	4
FP	馬渡	4
FP	崎元	2
FP	東郷	0
FP	山口	2
FP	藤元	5
FP	楠本	0
PT	(3)	19

（審・夏目、松ヶ谷）

	〔シャト〕	得
GK	丸山	0
GK	渋谷	0
FP	渡辺	2
FP	嶋崎	8
FP	海道	5
FP	松沢	5
FP	春山	2
FP	田村	2
FP	百瀬	5
FP	平田	1
FP	成島	0
FP	小林	0
PT	(1)	21

▼7位決定戦

東京重機 22（9−8, 13−13）21 日本ビクター

○…平均して長身のビクターは試合開始直後、武藤のシュートが決まりワンサイドゲームを思わせた。しかし、動きで勝る東京重機は市川を中心に攻め、一瞬のスキも許されぬ緊迫したゲーム展開となり、前半9―8と東京重機のリードで終わった。

後半に入ってからも、ともに一進一退の緊迫したゲームとなった。残り7分、重機は山崎、市川のシュートで2点差とする。これに対してビクターも必死に反撃するが、重機の厚みのあるディフェンスに阻まれて、22―21で重機が勝利をあげた。（不明）

	〔日ビ〕	得	〔重機〕	得
GK	渡辺	0	石井	0
GK	小口	0	大角	0
FP	中根	2	山崎	2
FP	武藤	3	市川	10
FP	遠藤	3	大川	3
FP	長田	8	嶋田	0
FP	下條	2	伊原	0
FP	根本	2	古谷	4
FP	太田	1	大林	3
FP	平松	0	熊谷	0
FP	工藤	0	矢田	0
FP	松井	0	星	0
		21		22
PT	(6)		(2)	

（審・日比、川合）

▼5位決定戦

ジャスコ 25 （11―10、14―11） 21 大和銀行

○…前半、寺沢を中心にポストを多用するジャスコに対し、丸田、赤瀬のロングを中心に攻める大和銀行。1点を互いに取り合う緊迫した展開だったが、後半10分過ぎあたりから大和銀行のミスが目立ち始め、そこをジャスコが速攻で一気に攻め、点差が開き試合の大勢が決まった。（織機）

	〔大和〕	得	〔ジャ〕	得
GK	高浜	0	小深田	0
GK	増見	0	山口	0
FP	丸田	6	寺沢	6
FP	上西	5	石田	3
FP	赤瀬	2	近藤	4
FP	佐々木	4	鷲野	7
FP	植田	0	服部	1
FP	天谷	0	高岡	0
FP	前田	0	石田	4
FP	上村	4	寺西	0
FP	藤本	0	池田	0
FP			常石	0
		21		25
PT	(2)		(3)	

（審・夏目、松ヶ谷）

▼3位決定戦

ブラザー工業 30 （13―9、17―14） 23 大崎電気

○…前半の立ち上がりは、ブラザーが応援団の声援にも後押しされ好調なスタートを切った。その後は、ブラザーの一歩リードのまま進んだ。ブラザー・小池のシュートGK・大藪の好守が光る。前半の終わり頃には互いにミスが目立ちこうちゃく状態が続いた。

後半は、ブラザー・久保田、大崎・李のシュートが光る。一時は大崎2点まで押いつくが、ブラザー・小池の連続シュート、GK大藪もきっちり守り、大崎の追撃を許さなかった。（西脇、喜多）

	〔大崎〕	得	〔ブエ〕	得
GK	大西	0	畑添	0
GK	梅野	0	大藪	0
FP	時實	2	荒木	3
FP	松尾	2	小池	9
FP	塩谷	0	茂山	3
FP	石井	3	中村	1
FP	沖山	4	道上	2
FP	徳渕	3	久保田	9
FP	西村	0	奥山	2
FP	金玉花	1	板倉	1
FP	李相玉	8	大久保	0
FP	米山	0		
		23		30
PT	(2)		(3)	

（審・日比、川合）

▼決勝

日立栃木 23 （6―12、17―9） 21 立石電機山鹿

○…両チームとも立ち上がりからミスが目立ち雑なゲームとなったが、日立は前日の大崎戦ほどの元気がなく、チャンスを確実に得点した立石が12―6として前半を終了。

後半、日立もロングシュートが決まり出し、じりじりと追い上げ、27分には遂に逆転。このあたり立石にあせりが見え、残り1分半、日立に2名の退場者が出たが追いつけず、日立が逃げ切った。（高橋）

	〔立石〕	得	〔日立〕	得
GK	荒木	0	葛生	0
GK	岡本	0	岡本	0
FP	山口	0	手打	1
FP	近藤	1	前田	6
FP	江口	5	清水	1
FP	岩村	2	井沢	7
FP	池上	4	吉田	2
FP	野嶋	8	山岸	3
FP	山内	1	尾苗	3
FP	横田	0	山口	0
FP	福家	0	菅原	0
FP	武津	0	中村	0
		21		23
PT	(2)		(3)	

（審・上久保、北井）

決勝の日立栃木対立石電機山鹿の試合

〔個人賞〕

○ベストセブン
- GK 葛生豊子（日立栃木）
- FP 野嶋ちえみ（立石電機山鹿）
- 池上由美（立石電機山鹿）
- 前田重子（日立栃木）
- 小池宏子（ブラザー工業）
- 李　相玉（大崎電気）
- 寺沢路子（ジャスコ）

○敢闘賞
- 大西佐代子（大崎電気）
- 久保田美香（ブラザー工業）
- 丸田紀子（大和銀行）
- 近藤育子（ジャスコ）
- 下条千恵子（日本ビクター）
- 山崎由香（東京重機）
- 馬渡友子（ソニー国分）
- 海道元子（シャトレーゼ）
- 小林章子（ムネカタ）
- 川崎浩美（北国銀行）
- 山岸和子（日立栃木）
- 山内香代（立石電機山鹿）

○新人賞
- 茂山景子（ブラザー工業）

○最優秀監督賞
- 伊藤宏幸（日立栃木）

第27回全日本実業団選手権（男子の部）

湧永製薬が2年ぶり7回目の栄冠に

第27回全日本実業団選手権男子の部は、5月16日～18日の3日間、大阪市中央体育館で開催された。決勝は、湧永製薬対大崎電気という昨年暮の全日本総合と同じ顔合せとなったが、湧永が大崎を圧倒、2年ぶり7回目の優勝を飾った。

▼1回戦

本田技研熊本 26 〔11−2／15−6〕 8 日鉄建材（大阪）

○…開幕ゲームとあって双方に固さが目立ち、パスミスで互いにチャンスをつぶす。先手をとったのは本田技研熊本で、ようやく5分過ぎ、佐伯のロング、長野透のミドルがたて続けに決まり、GK中尾の好守もあって前半11−2と大きくリード。

後半も単発的なシュートしかなく、元気の出ない日鉄にその差を広げ大勝した。

得	〔熊本〕		〔日鉄〕	得
0	岩木	GK	蓑輪	0
0	中尾	GK	川上	0
0	田上	FP	杉本	2
2	斉所	FP	山口	2
7	長野透	FP	中山	1
7	佐伯	FP	池辺	0
4	長野一	FP	上山	0
0	岡崎	FP	外山	0
0	鯖江	FP	清原	2
1	三代	FP	若本	1
0	樋口	FP		
5	荒田	FP		
26	(1)	PT	(1)	8

（審・大原、北山）

大崎電気（埼玉） 31 〔17−6／14−10〕 16 大阪ガス（大阪）

○…攻、守、走すべてに上回る大崎は、多彩な攻撃で大阪ガスを圧倒、水谷、加地のロングで食い下がるのをものともせず完勝した。

得	〔大崎〕		〔大阪〕	得
0	渡辺	GK	福田	0
0	矢内	GK	森	0
4	松岡	FP	奥野	1
2	武田	FP	加治	3
1	首藤	FP	竹志	1
5	中田	FP	藤井	0
5	山本	FP	中村	0
0	越迫	FP	水谷	6
1	菅田	FP	田坂	2
2	星野	FP	藤田	3
3	大和田	FP		
8	宮下	FP		
31	(3)	PT	(1)	16

（審・丸谷、奥田）

三陽商会（東京） 22 〔8−9／14−11〕 20 三景（東京）

○…東京同士で手の内を知り尽した両チームは、それぞれに2番からのボール回しからポスト、サイドを攻め、よく似た展開で三景が常に1～3点リードをキープ。後半、中盤過ぎからスパートをかけた三陽が、実方、清家で一気にたたみかけて追いつき、追い越した。

得	〔三陽〕		〔三景〕	得
0	内野	GK	中村	0
0	宇田川	GK	北川	0
1	関	FP	田畑	7
5	清家	FP	太田	0
2	田口	FP	近藤	3
3	砂川	FP	高橋	0
3	山口	FP	峰尾	0
0	石原	FP	福永	0
8	実方	FP	田村	0
0	安藤	FP	鈴木	1
0	河村	FP	山田	0
0	吉原	FP	郡司	9
22	(1)	PT	(2)	20

（審・井上、島崎）

中村荷役（東京） 28 〔15−8／13−12〕 20 本田爽風会（三重）

○…若い爽風会はよく動くものの、軸となる選手がおらず決め手を欠き、ディフェンスの甘さを中村荷役につかれ、福士、小野の2人に19点を献上するあり様で、昨年の勢いがカラ回り、今少しの出来が悪く、ほんろうされた。

得	〔中村〕		〔爽風会〕	得
0	石井	GK	三宅	0
0	高橋	GK		
0	酒井	FP	小池	1
0	岡部	FP	香西	3
8	小野	FP	山野	0
11	福士	FP	真砂	1
0	大木	FP	東	2
3	三屋	FP	船谷	7
0	塚田	FP	山下	3
2	永沢	FP	松下	0
1	長原	FP	金沢	3
3	吉田	FP		
28	(2)	PT	(5)	20

（審・尾高、田中）

▼準々決勝

大同特殊鋼（愛知） 37 〔20−10／17−11〕 21 本田技研熊本

○…大同特殊鋼は復帰第1戦とあってコートサイドの注目を浴びながらスタートしたが、蒲生のキャッチミス、市川の速攻でのノーマークシュートミスなど立ち上がりは固さがみられた。しかし、7分を過ぎた頃から本田技研熊本の単調なシュートにも助けられ、速攻が決まり出し、一気に8−2と開く。その後大同の勢いは止まらず、順調に得点を重ねた。一方、本田技研熊本は17分過ぎからエンジンがかかり始め、たて続けに5得点をあげたが、前半20−10で終る。

後半は両チームともディフェンスが甘くなり、点の取り合いとなって一進一退が続いたが、18分過ぎ、後半休んでいた蒲生がコートに戻りチームが引き締って、最後のスパートをかけ、37−21で試合を終えた。

得	〔大同〕		〔熊本〕	得
0	秋吉	GK	岩木	0
		GK	中尾	0
6	田中	FP	田上	0
4	内藤	FP	斉所	2
5	高村	FP	長野透	4
1	小野	FP	佐伯	6
3	市川	FP	長野一	2
3	中本	FP	岡崎	0
0	河井	FP	鯖江	0
0	蒲生	FP	三代	0
13	横浜	FP	樋口	4
2	海江田	FP	荒田	3
37	(2)	PT	(2)	21

（審・大原、北山）

大崎電気 32 〔15−15／17−16〕 31 日新製鋼（広島）

○…西山の強烈なクイックシュートで先制した日新は、気迫のこもったアタック・ディフェンスで大崎ロング陣を阻止、15分には11−6とリード。苦しい展開の大崎は、ポストに活路を見出してジリジリ追い上げ、日新に疲れが見え前へ出るのが一瞬遅れたスキを、首藤、宮下が打ち込むパターンで前半同点にこぎつけた。

後半も西山、甲斐らで着実に得点し差を広げにかかる日新が20分に3点リード、有利に見えたが、またも足が止まり、前半と同じパターンで打ち込まれ、大崎の執念の前に涙の逆転負け。

得	〔大崎〕		〔日新〕	得
0	岡部	GK	西川	0
0	矢内	GK	森田	0
6	松岡	FP	森	0
0	武田	FP	武田	4
7	首藤	FP	西山	11
1	中田	FP	吉見	0
4	山本	FP	甲斐	3
0	越迫	FP	藤井	5
3	菅田	FP	日野	0
4	星野	FP	堀田	6
0	大和田	FP	一瀬	0
7	宮下	FP	高木	2
32	(2)	PT	(5)	31

（審・島崎、井上）

湧永製薬（広島） 24 〔13−10／11−8〕 18 三陽商会

○…メンバーが充実して意気上がる三陽は、実方、砂川を中心として王者の湧永と互角に渡り合い何度も並びかけたが、そのたびに生駒の大砲が炸裂して突き放され、メンバーチェンジをひんぱんに行って目先を変える湧永をつかまえ切れなかった。

得00230520600
〔三陽〕野川　家口川口原方藤村
内宇田関　清田砂山石実安河
GK　FP　（審・丸谷・奥田）　PT
(3)　18

城藤駒本賀川田本田原原
〔湧永〕大井生藤志中内山奥楢河
得00822421401
24　(1)

本田技研鈴鹿 40 〔20−7, 20−5〕 12 中村荷役
（三重）

○…スローオフ直後からエンジン全開のホンダ車は、縦横に走り回って多彩なオフェンス力を披露、タイムアップまで息をつかせぬ全員得点の猛攻で、福士、酒井の単発シュートしかない中村荷役に圧勝した。

得004004110011
〔中村〕井次井部野士木屋田沢原田
石末酒岡小福大三塚水長吉
(2)　12
GK　FP　（審・田中・尾高）　PT

畑本松野木上藤屋山口本子
〔鈴鹿〕大橋三田立尾内粟吉田山平
得004826337241
40　(4)

▼9〜12位決定戦

三景 24 〔11−9, 13−8〕 17 日鉄建材

○…三景のスローオフで始まり立ち上がりすぐ三景がゲット、中盤までは両チームともロング、ポストを使っての同じような攻撃。やや三景がシュート力に優り、前半5点差で終了。

後半に入り日鉄建材も2連取し3点差につめ寄るが、ディフェンスが悪くすぐ取り返される。

得0044431001
〔日鉄〕輪上本口山辺山山原本
蓑川杉山中池上外清若
(1)　17
GK　FP　（審・丸谷・奥田）　PT

村川畑田藤橋永村木田谷司
〔三景〕中北田太近高福田鈴山大郡
得007250031006
24　(2)

大阪ガス 23 〔12−13, 11−9〕 22 本田爽風会

○…大阪ガス・竹志が、終了間際爽風会の速攻パスをカット、逆速攻を決めて劇的な勝利を収めた。

良い立ち上がりを見せた爽風会であったが、大阪ガスは水谷、新人。加治の活躍でそのまま逃げ切るかに見えたが、大阪ガスの守りのミスをついて爽風会が追いつき緊迫した面白い終盤戦になった。

得0123346201
〔爽風会〕宅池西野砂東谷下下沢
三小香山真船山松金
(5)　22
GK　FP　（審・田中・尾高）　PT

田森野治志井村谷坂田
〔大阪〕福奥加竹藤中水田藤
得0006100826
23　(3)

▼5〜8位決定戦

三陽商会 22 〔5−11, 17−7〕 18 本田技研熊本

○…本田技研熊本の甘い守りに三陽商会は巧みなボール回しと鋭い切り込みなどで着々と得点を重ね、守ってもGKの美技をも含み固い守りは本田の雑なシュートを誘い、大量リードで前半を終了。

後半開始早々の荒田の退場で奮起した本田熊本はよく走り、リズムに乗った攻守で6点を連取、17分には1点差と追ったが、実力に一日の長のある三陽が、最後に個人技で強引に得点を重ね、追いすがる本田を振り切った。

得00024570000
〔熊本〕木尾上所透伯一崎江代口田
岩中田斉長野佐長野岡鯖三樋荒
(3)　18
GK　FP　（審・井上・島崎）　PT

山川田川関家口川口原方藤村原
〔三陽〕大宇清田砂山石実安河吉
得003203707000
22　(2)

日新製鋼 30 〔16−8, 14−7〕 15 中村荷役

○…日新・西山、高木のシュート力を中村荷役がやはり防ぎきれなかった。日新のリードで終始した。日本リーグ1部、2部の差がプレーのきびしさと共に得点差となった。

得002111100011
〔中村〕井橋井部野士木屋田沢原田
石高酒岡小福大三塚永長吉
(1)　8
GK　FP　（審・大原・北山）　PT

川田森田山斐井野田瀬木中
〔日新〕西森武西甲藤日堀一高野
得002342418231
30　(3)

▼準決勝

大崎電気 26 〔14−9, 12−11〕 20 大同特殊鋼

○…前半シーソーゲームを演じた両チームであったが、後半、大崎は宮下を中心に素晴しいディフェンスと攻めを見せ、GKの好守と相まって追いすがる大同をふり切ったゲームであった。

得02031321620
〔大同〕吉中藤村野川本井生浜田
秋田内高小市中河蒲横江海
(1)　20
GK　FP　（審・井上・島崎）　PT

部内岡田藤田本迫田野田下
〔大崎〕岡矢松武首中山越菅星和大宮
得006050701106
26　(1)

湧永製薬 21 〔12−14, 9−4〕 18 本田技研鈴鹿

○…前半10分で僅かに本田のペナルティーゴールの1−0と両チーム共に攻撃がかみ合わず、貧打戦と思わせたが、湧永・生駒が

得000000233532
〔鈴鹿〕畑本木松々本野木上藤屋山口本
大橋佐三田立尾内粟吉田坂
(5)　18
GK　FP　（審・大原・北山）　PT

城藤駒本賀川田本田原原
〔湧永〕大井生藤志中内山奥楢河
得00101210322 0
21　(3)

打ち込み（10得点）、本田の決勝進出への夢をくだいた。

▼11・12位決定戦

本田爽風会 22 〔12−8 10−11〕 19 日鉄建材

○…若さあふれる本田爽風会は、山野、真砂のロングを軸にはつらつとしたプレーを展開、序盤を9−3と大きくリード。元気のない日鉄建材はキャプテン杉本が孤軍奮闘して速攻、サイドと得点を重ねるが、山口、上山の左右ヒッターが今一つで、追いつけなかった。

位置	〔日鉄〕	得	位置	〔爽風会〕	得
GK	箕輪	0	GK	三宅	0
GK	川上	0	FP	小池	0
FP	杉本	8	FP	香西	0
FP	山口	2	FP	山野	5
FP	中山	1	FP	真砂	5
FP	池辺	2	FP	東	2
FP	上山	3	FP	船谷	5
FP	外山	0	FP	山下	3
FP	清原	0	FP	松下	0
FP	古川	0	FP	金沢	2
FP	若本	3			
計		19	計		22
PT		(3)	PT		(4)

審・大原 北山

▼9・10位決定戦

三景 28 〔17−6 11−9〕 15 大阪ガス

位置	〔大阪〕	得	位置	〔三景〕	得
GK	福田	0	GK	中村	0
GK	森	0	GK	北川	0
FP	奥野	1	FP	田畑	3
FP	加治	6	FP	太田	1
FP	竹志	1	FP	近藤	3
FP	藤井	0	FP	高橋	1
FP	中村	0	FP	峰尾	0
FP	水谷	0	FP	福永	0
FP	田坂	3	FP	田村	5
FP	藤田	4	FP	鈴木	5
			FP	山田	0
			FP	郡司	10
計		15	計		28
PT		(1)	PT		(0)

審・田中 尾高

○…三景は、GK中村の好守から速攻が矢つぎ早に決まり、遅攻でも郡司、田畑のロングと田村、鈴木のステップシュートがネットに炸烈し、完勝した。

▼7・8位決定戦

中村荷役 18 〔9−7 9−6〕 13 本田技研熊本

○…前半、本田技研熊本の攻めパターンをよく読んだ中村は、積極的に前に出るディフェンスでパス筋を分断する作戦が功を奏して、佐迫の単発シュートのみに頼る本田熊本を尻目に、福士の好リードからポスト、サイドと着実に得点を重ね、後半もブラインドをうまくついた福士のステップシュートがよく決まり快勝した。

位置	〔熊本〕	得	位置	〔中村〕	得
GK	岩木	0	GK	石井	0
GK	中尾	0	GK	高橋	0
FP	田上	0	FP	酒井	1
FP	斉所	1	FP	岡部	0
FP	長野透	2	FP	小野	3
FP	佐伯	4	FP	福士	9
FP	長野一	3	FP	大木	0
FP	岡崎	0	FP	三屋	2
FP	鯖江	0	FP	塚田	1
FP	三代	0	FP	永沢	0
FP	樋口	0	FP	長原	0
FP	荒田	3	FP	吉田	2
計		13	計		18
PT		(1)	PT		(2)

審・井上 島崎

▼5・6位決定戦

三陽商会 27 〔11−10 16−12〕 22 日新製鋼

○…開始早々、西山の強シュートで先制した日新は、サイド甲斐、ロング高木とそれぞれ個性を発揮したプレーで必勝の構え。対する三陽は、バランスのとれた陣容で関の好アシストから若手がのびのびプレー。

後半10分まで一進一退のシーソーゲームだったが、走力に優る三陽が、足の止まった日新を徐々に引き離して、会心の勝利を収めた。

位置	〔日新〕	得	位置	〔三陽〕	得
GK	西川	0	GK	大山	0
GK	谷	0	GK	宇田川	0
FP	森	0	FP	関	2
FP	武田	1	FP	清家	4
FP	西山	11	FP	田口	3
FP	吉見	1	FP	瓜田	0
FP	甲斐	2	FP	砂川	5
FP	藤井	2	FP	山口	4
FP	日野	0	FP	実方	9
FP	堀田	2	FP	安藤	0
FP	一瀬	0	FP	河村	0
FP	高木	3	FP	吉原	0
計		22	計		27
PT		(9)	PT		(5)

審・田中 尾高

▼3・4位決定戦

本田技研鈴鹿 26 〔14−9 15−15〕 24 大同特殊鋼

○…先手をとったのは本田鈴鹿。立木のカットインを皮切りに、湧永戦でシャットアウトされた足攻を余すことなく爆発させて、坂本、尾上の両サイドが走りまくり、粟屋のゲームメイクから立木、内藤のミドルを引き出す理想的な展開で、前日のうっぷんを晴らすかのような機動力を見せつけた。

一方、大同特殊鋼もプレイングマネージャー蒲生の好アシストから大型新人・横浜（国士館大出）のロング、中本、河田のポスト、海江田のサイドなどで反撃し、守っても新鋭GK秋吉の奮闘で頑張ったが、1年のブランクが大事な場面でのディフェンスミスにつながり、ムードに乗り切れなかった。

位置	〔大同〕	得	位置	〔鈴鹿〕	得
GK	秋吉	0	GK	大畑	0
FP	田中	0	GK	橋本	0
FP	内藤	0	FP	佐々木	0
FP	高村	1	FP	三本松	0
FP	小野	4	FP	田野	0
FP	市川	2	FP	立木	6
FP	中本	3	FP	尾上	7
FP	河井	3	FP	内藤	4
FP	蒲生	3	FP	粟屋	2
FP	横浜	5	FP	吉山	5
FP	海江田	3	FP	田口	0
			FP	坂本	5
計		24	計		29
PT		(2)	PT		(4)

審・大原 北山

▼決勝

湧永製薬 23 〔12−8 11−8〕 16 大崎電気

○…開始1分、前日10得点の大暴れをした生駒の豪快なシュートがネットを揺るがせ、湧永ペースで滑り出した。大崎が速攻展開に持ち込もうとするのを、試合巧者の湧永はじらし気勢を殺ぐ作戦が当たって、前半20分には9−4と意外な大差。ディフェンスに全精力を注ぐ湧永は帰陣が早く、フリースローラインまでピストンし、大崎の誇る大砲も湿りがちで、湧永に退場者が出たチャンスにも逆に点差を広げられる始末で盛り上がらないままに推移、物足らない試合内容となった。

位置	〔大崎〕	得	位置	〔湧永〕	得
GK	岡辺	0	GK	大城	0
GK	矢内	0	GK	井藤	0
FP	松岡	2	FP	生駒	8
FP	武田	0	FP	藤本	0
FP	首藤	2	FP	志賀	2
FP	中田	0	FP	中川	3
FP	山本	4	FP	内田	1
FP	越迫	1	FP	山本	2
FP	菅田	1	FP	奥田	2
FP	星野	1	FP	楢原	5
FP	大和田	0	FP	河原	0
FP	宮下	5			
計		16	計		23
PT		(1)	PT		(1)

審・井上 島崎

ぬくもりのメカトロニクス
brother

売ってないものは、作るしかない。

の　。

アロハのパンツ、作りました。ハワイで買ってきたデッドストック、ユーのためにバラしたんです。Y.G.ってイニシャルもいれましたのよ。私のお胸からユーのおしりへ。気に入ったら、シリーズでクリエーチブしちゃいます。ただしお願いが2つ。人前(私以外の!)で見せないこと。それから、私が作ったわけだから、できれば、その、洗うのもね、私にやらせてくださいまし。ご検討くださいまし。(ブラザー・コンパルαII) 1 覚えてる。280種ものぬい方や最大20まで組合わせできる文字・模様ぬい。別売のカプセル(どうぶつ)(のりものと風景)。などを記憶するかしこいミシンです。2 描ける。オリジナル模様を5つまでメモリーして、糸で絵が描けます。3 しゃべる。ブラザーだけの"トーキング・ミシン"。操作を8種類の声でアドバイス。初心者でも誤操作を未然に防ぐ親切なミシンです。

で。

コンパルαII (アルファ)

ZZ3-B861　現金価格 238.000円

ブラザー工業株式会社
名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467
TEL (052)824-2511(代表)

molten®

official size weight
MTH3

瞬間、
信頼の手がかり!

独自の32面体
ノンスリップ構造で
ダイナミックプレーを演出する
モルテンハンドボール

独特のリブ形状とパネル間段差の"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりを生み出すとともに、ナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現したモルテンハンドボールは、日本ではじめて国際ハンドボール連盟(I.H.F.)公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。

●日本ハンドボール協会検定球(J.H.A.)
●国際ハンドボール連盟公認球(I.H.F.)

モルテン
ハンドボール

株式会社モルテン
東京本社　東京都墨田区横川5—5—7 〒130 ☎(03)625—7581
東京・大阪・広島・名古屋・福岡・札幌・ロサンゼルス・ジュッセルドルフ

大阪高校選抜チーム 第3回西独遠征報告

大阪高校選抜チームが、国際親善を通じ、個人技術の向上、コンビネーションプレー、チームの和による競技力向上などを目的に、第3回の西独遠征を3月21日から4月4日までの15日間行ない、多大な成果をあげて帰国、報告書を提出いただきましたので、ここにその内容をご紹介致します。

遠征チームの反省

〈男子〉

○…時差ボケがあったのか、日程前半のゲームは勝てる内容であったのに、充分な力が出なかった。後半はチームワークも良くなり、最後には和やかなムードでいけた。（選手）

○…プレーでは、どうしても中心選手に頼りがちで、他の選手が動くほどに逆に邪魔になるような気がした。しかし、中心選手も他の選手をリードするような気迫も欲しかった。（選手）

○…生活面では、慣れるにしたがって時間のルーズさが出てきた。（選手）

○…競り合いのゲームが最初に多かったのが悔やまれる。最後のディスブルグとミュンヘンとのゲームは、力がついたゲームであった。（役員）

○…自分の能力（全ての面を含めて）と比較して、西ドイツから学ぼうとする姿勢のある選手はいなかったように思う。ただ相手の体力の凄さに驚くばかりで、国民性や考え方の違いを差し引いて、ハンドボールに対する考え方や人間的な面をもっと吸収して欲しかった。（役員）

〈女子〉

○…みんなで試合のことなどで

〔西独遠征，大阪高校選抜チームの役員・選手〕

役職	氏名	所属
団長	光島磯雄	八尾高校教諭
総監督	北岡大覚	寝屋川高校教諭
総務	津熊美智子	門真高校教諭
レフェリー	村尾亮	豊島高校教諭
看護婦	橋本富子	八尾市立病院勤務
オブザーバー	阪口登起子	上二病院勤務
〃	北岡怜子	南寝屋川高校勤務

〈男子〉

監督　青山峰数　（加納高校教諭）

選手

	番号	氏名	所属
GK,	1	岩上智英	（此花学院 2年）
	12	安田浩	（桜宮 2年）
	16	古賀正広	（西寝屋川 2年）
FP,	2	桜井賢	（三国丘 2年）
	3	吉岡敏秀	（三国丘 2年）
	4	瀧尻博史	（阪南 2年）
	5	三宝博光	（島上 2年）
	6	田中英視	（此花学院 2年）
	7	藤田公一	（此花学院 2年）
	8	西岡和彦	（八尾 2年）
	9	稲田恭章	（八尾 2年）
	10	古中厚実	（八尾 2年）
	11	平野勝幸	（西寝谷川 2年）
	13	三宅健	（北野 2年）

〈女子〉

監督　赤星明　（西寝屋川高校教諭）

選手

	番号	氏名	所属
GK,	1	森めぐみ	（豊島 2年）
	12	厚東弥恵	（枚方 2年）
FP,	2	長田真規子	（豊島 2年）
	3	嘉川由紀子	（池田 2年）
	4	樋口直子	（枚方 2年）
	5	岡真佐美	（枚方 2年）
	6	梶本裕子	（枚方 2年）
	7	水野有里	（寝屋川 2年）
	8	前田泰子	（久米田 2年）
	9	田所千代	（久米田 2年）
	10	木村恵美	（西寝屋川 2年）
	11	菅諭美	（刀根山 2年）
	13	吉村一美	（刀根山 2年）
	14	矢野徳子	（信愛女学院2年）

〔親善試合結果〕

〈男子〉

▶第1戦（3月23日）
× 大阪 12 (9—12 / 13—15) 27 パルツ選抜

▶第2戦（3月24日）
× 大阪 23 (8—20 / 15—14) 34 南バーデン地域選抜B

▶第3戦（3月26日）
× 大阪 24 (8—13 / 16—22) 35 南バーデン選抜A

▶第4戦（3月28日）
× 大阪 31 (13—16 / 18—18) 34 ＡＳＶ1880

▶第5戦（3月29日）
○ 大阪 25 (9—11 / 16—12) 23 ミルバーツホーフェン・ジュニア

▶第6戦（3月31日）
○ 大阪 44 (17—6 / 27—7) 13 チュス・ゲーレンベック

▶第7戦（4月2日）
○ 大阪 29 (18—14 / 11—10) 24 ユーゲントA

〈女子〉

▶第1戦（3月28日）
× 大阪 16 (4—16 / 12—16) 32 SV. SUDWEST LUDWIGSHAFEN

▶第2戦（3月24日）
× 大阪 8 (6—10 / 2—16) 26 南バーデン地域選抜B

▶第3戦（3月26日）
× 大阪 12 (6—15 / 6—18) 33 南バーデン地域選抜A

▶第4戦（3月28日）
○ 大阪 27 (14—6 / 13—8) 14 ＡＳＶダッハウ

▶第5戦（3月29日）
× 大阪 23 (12—19 / 11—16) 35 ゲァリッツリード

▶第6戦（3月31日）
○ 大阪 31 (16—8 / 15—7) 15 チュス・ゲーレンベック

▶第7戦（4月2日）
○ 大阪 18 (10—8 / 8—6) 14 ユーゲントA

話し合う機会が少なかった。そのため、プレー面でしっくりこない場面もあり、単純なミスの多さにつながった。（選手）

○…よく似たタイプの選手ばかりだったので、雰囲気が暗い時には全体がそうで、逆にハメを外し過ぎてブレーキがかからず、先生を困らせた。（選手）

○…フォーメーションにこだわり過ぎたのか、本来自分のチームでプレーする時持っていた良さが出せず、観客にも面白味のないゲームに終わってしまった。（選手）

○…練習不足。ドイツ国内ではすべてIHF球でトレーニング。日本はIHF球は初めてで、キャッチミス、シュートミスが多く、自滅ゲーム多し。（役員）

○…チームプレーが少なかった。（役員）

西ドイツチームの印象

〈男子〉

○…体格が良く、一見緩慢に見えても実際は動きも俊敏で、パワフルシュート、テクニックもかなりあった。技術的には余り複雑なセットプレーなどはなかったので大阪チームの方が上のように思えた（南バーデン地域選抜を除く）が、全員が同じかたちでプレーでき、なおかつ好きでハンドボールをしているというのは、素晴らしいことだと思う。（選手）

○…やはり本場、大変なテクニシャンのプレーヤー（ペーター君）がいる。（選手）

○…細かいステップと早いパスワークからポストとサイドシュートの確率の高さ。競り合いで必ずポストの倒れ込みにやられ、警告、退場となり防御ができない。また速攻も速く、確実に得点を奪われた。（役員）

○…小さい頃からハンドボールをやっているので、全ての面でよくハンドボールを知っている。自分の位置するクラスのハンドボールを完全にこなしている。無理をせず、自分の能力をそのクラスまで上げている。

最終的には、スポーツの基本であるスピード、パワーを最大限どこまで伸ばすか、それに技術、戦術、精神力が伴うよう努力していると思われる。しかも、全て自主的で、楽しんで行なっている。（役員）

○…スピードで、高さ、力強さ。（役員）

〈女子〉

○…背が高くパワーがある。体で防御したつもりでも、腕だけでシュートをする。思い切って前へ出て守っても、打たれたケースが多かった。（選手）

○…日本のような速攻が少なく、速攻をパスで抜けるよりもドリブルで防御をかわす場面があった。ただそうは見えないのに、一度カットされると追いつけない脚力もあった。したがって、攻撃の型は主に遅攻であるが、サイドシュートの勢いやポストのパスが確実に通るところは、素晴らしかった。（選手）

日本チームが見習うべき点

〔GKの個人技術（男子）〕

○…位置取りがゴールラインと平行であった。ポストシュートへのつめが早い。（選手）

○…二段モーションのシュートに対して、顔の両横が開かなかっ

た。（選手）

○…股下部分がやや弱いように思った。（選手）

○…防御とのコンビネーションは確実である。（役員）

○…ディフェンスに関係なく、自分に向かってくるボールに対して、全てに反応し止める気でやっている。気迫が素晴らしい。集中力もある。（役員）

〔GKの個人技術（女子）〕

○…特に目につく点はなかったが、サイドシュートへの備えはできていた。（選手）

○…シューターがシュートするまで、びくともしない。（選手）

〔FPの個人技術（男子）〕

○…前への迫力、突進力、パワーの違い。ポスト・プレーヤーの移動の素早さ。（選手）

○…南バーデン・ペーター選手のフェイント動作、緩急の差。（選手）

○…ボールを持った選手は、誰でもシュートを狙っている。自分のプレーに自信を持っている。

○…サイドとポストが弱い。西独に見習う必要あり。（役員）

○…一部を除いて、全体的に技術はあまり差はないと思うが、基本的な体力・身長・手の長さ・足の長さ・手の大きさ・筋力があまりにも差がありすぎて、ハンドボール以前の問題が大きいと思う。（役員）

〔FPの個人技術（女子）〕

○…体格の違いは仕方ないが、シュート力と粘り強い攻撃力など見習いたい。（選手）

○…サイドシュートは、角度のないところからでもとび込んでくる。（選手）

○…フローターからのパスでサイドかポストか他のプレーヤーがカットインするプレーは大いに参考になった。防御できそうなのにフリースローラインから走り込むスピードがあり、つかむと振り切られ、ペナルティーをとられた。（選手）

○…ラテラルパスなどをとり入れたい。日本チームは、少し手に触れられるとボールを落とすか放してしまった。（選手）

〔攻撃面でのチームワーク（男子）〕

○…全員が得点できる力を持っている。コンビネーションプレーは、西独チームにはあまり見られず、日本の方がスピードがあったと思うが、精神的なつながりは、ドイツチームの方が上であったように思う。（選手）

○…高さとスピードシュートに泣かされた。ポストシュートの倒れ込み姿勢を見習うべきだと思う。（役員）

○…小さい頃からやっているので、ドイツのクラブのあり方や技術、体力、戦術に関する考え方がどの地域でも同じなので、選抜チームでもクラブチームでも同じようなハンドボールをする。基本にとても忠実であった。（役員）

〔攻撃面でのチームワーク（女子）〕

○…フォーメーション的プレーは必ず成功させていた。速攻プレーは、ほとんど得点につながった。味方への指示の声が西独チームに良く出ていた。（選手）

○…西独チームは、6人の位置取りがサイドライン一杯に広がっていたので、守る側としてもついサイドに開いてしまった。（選手）

○…ハーフ速攻などで得点できないと日本チームは攻撃面では少ししんどい。（役員）

〔防御面でのチームワーク（男子）〕

○…ゾーン・ディフェンスは日本の方が上。しかし、一人一人のディフェンスは、身体が大きいので攻撃しにくかった。（選手）

○…マンツーマン・ディフェンスが多かった。抜かれてエリア内にとび込んだらボールにしか手を出さない。ポストシュート、フェイントでは、防御の仕方がなかった。どう守るのがベターなのか？

西独遠征全般の感想

〈男子選手の感想〉

短い文章では表わせないぐらい、印象的な旅だった。出発前は、とても長いと思っていたのに、終わってみると大変短かかったような気がする。

最初は、自分の持っている技術が、本場でどれだけ通用するか、不安であった。特に第一戦。相手の大きさ、風貌などを見て緊張した。しかし、ゲームを重ねるにつれて、日本チームのような小柄な者でも、スピードとテクニックがあれば、大きい選手にも負けないことを知った。その反面、ミルバーツホーフェンのブンダリッヒの大きさとパワーにも感動した。

生活面では、スケジュールがわからず戸惑ったが、大変感動し、良い経験をつませてもらったと感謝することに、ホームステイでの出来事がある。家族の人々は優しかったし、まったくの他人である僕を家族の一員として扱ってくれ、色々な歓迎をしてくれた。外国の勉強にもなった。へたな英語が相手に通じた喜びは言葉ではいい表わせないぐらいであった。

レセプションでは、日本と西独の習慣の違いも学んだ。食事もその一つだと思うが、酒やタバコの法律上の規制の違いもあった。ドイツ人は、ビールをどんどん飲むし、車で来ている人もいたし、中

にはタバコを吸う者もいた。16歳からOKだという。最初ドイツ人がとても羨ましかった。けれど、レセプションも何回か経験するうちに、ドイツが16歳で、日本が20歳ということに、納得がいくようになった。日本人は、酒とかを飲むと、調子に乗りすぎて、どこまでもハメをはずすところがあるが、ドイツ人は同じ世代でも、酒を飲んで、ムードを盛り上げる事はするが、どこか落ち着きがあった。ちゃんと自分という者を、わきまえているなと思った。精神的な面で、まだまだ日本人はヨーロッパなど、他国に遅れをとっているなあとつくづく思った。

それに、日本と同じ工業国なのに、自然が一杯あって、美しい街並み・古城・空気・人そのものがとても新鮮で、自分の考えで行動しているように見受けられた。ドイツ人の、のんびりする時には思いっきりのんびりし、やるべき時には全力を出してやる。そんなけじめを、見習いたいと思う。

最後に、光島先生のように、何回もドイツに足を運び、本場のハンドボールを学びたいと思うと共に、この遠征を計画して下さった先生方に感謝して、きたるべきインターハイ予選に全力を尽くそうと思う。

〈女子選手の感想〉

西独に出発する前には、2週間も日本を離れて本当に生活できるのかな、と不安が一杯であったが、今遠征を終えて考えてみると、もう二度とはできない貴重な経験をしたと、うれしく思っている。

ホームステイの人たちは、本当に良くしてくれた。ドイツ語はもちろん、ほとんど英語も話せない私たちだったが、話せなくてもジエスチャーや目を見て会話する事ができたのは、感動的であった。ゲームで行く先々で会った人たちもみんな、日本の事を熱心に聞いてくれたり、無口になりがちな私たちの会話をリードしてくれた。でも、本当にもっともっと色々な事を話したかった。

本場でのゲームは、日本にはそういない170cm以上の選手ばかりで、いくらジャンプしても、上から打たれたことは、今でも悔やしい。初戦は、何がなんだかわからないうちに、ズルズルと負けてしまったが、自分のプレーさえ満足にできない状態であった。観ている人たちにとっては、おもしろみのないゲームになってしまった事を後悔している。一つのゲームが終わるたびに、今度こそ今度こそと思いつつ、最後まで不満足な結果に終わってしまったが、色々な学校から集まった選手のプレーを見て、大変勉強になった。

レセプションで相手の選手たちは、ほとんど勝ち負けを気にせず、楽しくハンドボールをしている。考えている。そんな環境の中で、プレーができるというのは、きっと自由な気持ちでやれるのだろうと羨ましく思った。

何にしても、外国へ来るという事は、学校での勉強よりずっと、社会勉強になって、両親や、周りの人の好意で参加できた事を大変感謝している。

〈役員の感想〉

第3回目の遠征で、すこしは馴れたとはいうものの、役員としての立場からは大変不安であった。第1回目の遠征でお世話になったハスロホ。全員がホームステイとは思わなかったが、今回も前回同様、よく接待してくれた。

第1戦。……力からみて、決して負けるとは思えないのに、時差ボケか、身体が動かず今回も敗退。誠に残念であった。また、初めてのフライブルク（黒い森）の中の街で2ゲーム。南バーデン地域選抜という、大変強いチームを当ててくれた。その中で、西独ナショナルの一員であるペーター選手の、手首のスナップが良く効いたパス・シュートとステップワークに刺激を受ける。

留学中の玉村・森山と会う。彼らも元気でやっている様子。現地の子供たちからサインをねだられるほどの人気者であった。

また、IHFの事務局長であるマックス・リンゲン・バーガー氏に会い、自宅に招待される。ヘルベルト・フィニンガー（南バーデン地域会長）と共に、光島団長と同行。

そこで、知らされた事は、「世界のハンドボールの発展の為には、ルールをどう変えたら良いのか。」といった事などが、考えられているのだと……。一九八七年（S62）にはルールが変わる。日本はそれを、是非先取りしたいものだ。

それにしても、氏を訪問している人物。日本人では、渡辺大崎電気社長と光島氏だけらしい。他の国では（特に、中国）多くの人が、記念品を持って訪れている。外交面でも日本は一歩遅れをとっている。誠に残念。渡辺社長がIHFの理事から外れたという事が、日本のハンドボールのレベルを低下させる事になったというリンゲン・バーガー氏の言葉、今一度、かみしめる事が必要なようである。

観光という面では今回は天気が悪く、最後まで曇・雨・雪まじりと、「つき」がなく、特にミンデンの火祭は、雨と寒さとの戦いで、折角の招待が良い印象として残らず、選手諸君には気の毒であった。

ゲームの後のレセプションでは、どこも大歓迎してくれたが、どことも和やかに日独親善ができたと思う。最後に別れたワルター・シエードリッヒ氏とブルメスター氏が、日本の大阪チームは、毅然としてけじめがあり、統制がとれた素晴らしいチームだと交流親善を喜んでくれた。

各地の記録から…

第19回滋賀県室内総合選手権

（2月28日、3月2日／滋賀県立体育館）

〈男子〉
滋賀教員 35—7 滋賀大教育
彦根西OB 20—17 安曇川高
高島ク 12—0 彦根区役所
長浜北高 19—9 M・H・O・C
八幡ク 25—12 守山ク
彦根工高 29—14 長浜ク
京都セラミック 17—14 彦根東高
高島高 22—11 ハンダース

▼2回戦
滋賀教員 18—10 彦根西OB
高島ク 18—14 長浜北高
八幡ク 21—16 彦根工高
京都セラミック 21—18 高島高

▼準決勝
滋賀教員 27—19 高島ク
八幡ク 21—18 京都セラミック

▼決勝
滋賀教員 25 {13—10 12—8} 18 八幡ク

※滋賀教員は6年連続6回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
守山女ク 17—7 滋賀大教育

▼2回戦
彦根商高 23—10 守山女ク
滋賀教員 20—5 大津ク
米原高 13—8 安曇川中
滋賀ク 20—4 高島高

▼準決勝
彦根商高 17—4 滋賀教員
滋賀ク 20—6 9—9 米原高

▼決勝
滋賀ク 18 {9—9 9—6} 15 彦根商高

長崎県一般・中学春季選手権

（4月13日／長崎工高）

〈中学男子〉
▼決勝
大瀬戸 21 {11—6 10—8} 14 時津

〈一般〉
▼1回戦
瓊浦ク 25—21 海上自衛隊
長崎大 23—22 ロ加ク

▼準決勝
佐世保ク 28—20 瓊浦ク
日大OB 25—16 長崎大

▼決勝
佐世保ク {19—11 11—6} 17 日大OB

千葉県実業団春季リーグ戦

（4月13、19、20日／三井石油化学体育館）

〈一部〉
日産石化 30—21 三井石化
海自下総 30—17 出光千葉
日産石化 26—24 海自木補所
コスモ石油 29—17 海自木補所
日産石化 22—21 出光千葉
コスモ石油 26—22 三井石化
海自下総 キケン 海自木補所
コスモ石油 31—19 出光千葉
海自下総 30—21 日産石化
三井石化 キケン 海自木補所
出光千葉 29—16 三井石化
海自下総 22—18 コスモ石油
出光千葉 21—15 海自木補所
コスモ石油 32—17 日産石化
海自下総 25—19 三井石化

［順位］①海自下総②コスモ石油③日産石化④出光千葉⑤三井石化⑥海自木補所

〈二部〉
東京電力 11—7 東京ガス
東京電力 キケン 海自館山
東京ガス キケン 海自館山

［順位］①東京電力②東京ガス③海自館山

〈一、二部入替戦〉
海自木補所 23—17 東京電力

※海自木補所が一部に残留。

第11回佐賀県春季総合選手権

（4月20日／神埼農高、神埼高）

〈一般男子〉
▼リーグ戦
佐賀教員 27 {12—5 15—5} 10 鵲友ク
龍登園ク 21 {6—15 15—2} 17 鵲友ク
佐賀教員 20 {10—10 10—4} 14 龍登園ク

［順位］①佐賀教員②龍登園ク③鵲友ク

※佐賀教員は、2年連続8回目の優勝。

〈高校男子〉
▼1回戦
佐賀西 13—6 佐賀東

▼準決勝
佐賀農 21—7 佐賀西
神埼農 22—9 神埼

▼決勝
神埼農 20 {13—6 7—7} 13 佐賀農

※神埼農は、4年ぶり5回目の優勝。

〈高校女子〉
▼1回戦
神埼農 22—4 佐賀東
佐賀女 22—5 神埼

▼準決勝
神埼農 26—1 嬉野商
佐賀女 31—3 東松浦

▼決勝
神埼 28 {16—3 12—2} 5 佐賀女

※神埼農は、2年ぶり9回目の優勝。

〈中学男子〉
▼1回戦
多久中央 20—15 神埼
基山 23—12 城北

▼決勝
基山 28 {16—9 12—10} 19 多久中央

＊基山中は、2年連続2回目の優勝。

〈中学女子〉
▼決勝
多久中央 11 {5—4 6—4} 8 神埼

※多久中央中は、3年連続3回目の優勝。

第66回愛知県実業団リーグ

（4月7日～25日／名古屋市体育館）

〈一部〉
日本電装 18—12 豊田合成
トヨタ自動車 31—11 新日鉄名古屋
トヨタ車体 25—22 豊田織機
トヨタ自動車 34—24 豊田合成

豊田織機 30－20 日本電装
トヨタ車体 22－15 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 36－21 日本電装
豊田織機 29－23 豊田合成
トヨタ自動車 29－24 豊田織機
トヨタ車体 30－13 日本電装
豊田合成 19－18 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 22－22 トヨタ車体
新日鉄名古屋 22－18 日本電装
豊田織機 27－18 新日鉄名古屋
トヨタ車体 25－19 豊田合成
［順位］①トヨタ自動車②トヨタ車体③豊田織機④豊田合成⑤新日鉄名古屋⑥日本電装

〈二部〉
○Aブロック
大同特殊鋼 46－11 豊田工機
ブラザー工業 20－14 東海理化
豊田工機 37－9 ブラザー工業
豊田工機 30－16 東海理化
大同特殊鋼 67－4 東海理化
大同特殊鋼 64－9 ブラザー工業
○Bブロック
パイロットインキ 31－21 日本碍子
アイシン精機 39－23 日本碍子
アイシン精機 39－19 パイロットインキ
○上位リーグ
豊田工機 34－20 パイロットインキ
大同特殊鋼 61－8 パイロットインキ
大同特殊鋼 57－9 アイシン精機
豊田工機 37－30 アイシン精機
○下位リーグ
日本碍子 25－20 東海理化
日本碍子 31－11 ブラザー工業
［順位］①大同特殊鋼②豊田工機③アイシン精機④パイロットインキ⑤日本碍子⑥ブラザー工業⑦東海理化

（一、二部入替戦）
大同特殊鋼 43－8 日本電装

長崎県高校春季選手権

（4月26、27日／長崎北高）

〈男子〉
▼1回戦
波佐見 29－10 佐世保商
上五島 17－13 佐世保北
長崎工 40－6 鹿町工
西彼 26－22 北陽台
佐世保西 17－7 長崎南
口加 20－19 西海
瓊浦 28－14 長崎北
▼2回戦
日大高 42－11 波佐見
長崎工 21－12 上五島
西彼 26－17 佐世保西
瓊浦 32－12 口加
▼準決勝
日大高 31－15 長崎工
瓊浦 22－14 西彼
▼3位決定戦
長崎工 20－18 西彼
▼決勝
日大高 22（13－5、9－4）9 瓊浦

〈女子〉
▼1回戦
長崎北 20－14 佐世保女
▼2回戦
佐世保北 19－4 日大高
有馬商 17－14 長崎北
佐世保西 21－5 島原農
佐世保商 22－5 聖和
▼準決勝
佐世保北 20－12 有馬商
佐世保商 13－11 佐世保西
▼3位決定戦
有馬商 24－11 佐世保西
▼決勝
佐世保北 22（12－7、10－5）12 佐世保商

石川県高校春季大会

（4月26、27、29日／小松市末広体育館、小松市総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
金沢商 23－10 松陵工
▼2回戦
小松工 46－9 金沢商
向陽 32－14 寺井
錦丘 23－14 泉丘
金沢市工 16－12 二水
小松明峰 25－10 小松
羽咋 33－19 大聖寺
県工 28－4 松任
星稜 26－19 小松商
▼3回戦
小松工 42－9 向陽
小松明峰 42－9 羽咋
錦丘 21－21 金沢市工（2PTC1）
星稜 20－14 県工
▼準決勝
小松工 43－8 錦丘
小松明峰 30－13 星稜
▼決勝
小松工 20（8－9、12－10）19 小松明峰
※小松工は4年連続9回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
金沢女短付 16－14 星稜
小松明峰 20－5 寺井
金沢商 19－7 松任
▼準決勝
小松商 35－0 金沢女短付
小松明峰 13－12 金沢商
▼決勝
小松商 42（19－2、23－2）4 小松明峰
※小松商は8年連続優勝。

和歌山県春季選手権

（4月27～29日／和歌山商高、桐蔭高）

〈一般男子〉
▼1回戦
県和商ク 27－15 和歌山高専
和歌山ク 17－16 和歌山医大
住友金属 28－14 応神ク
御坊ク 27－26 黒潮ク
▼準決勝
県和商ク 40－15 和歌山ク
御坊ク 24－21 住友金属
▼決勝
県和商ク 29（12－10、10－12、4－1、3－3）26 御坊ク

〈一般女子〉
▼リーグ戦
県和商ク 13－3 御坊ク
粉河ク 11－4 御坊ク
県和商ク 13－8 粉河ク
※①県和商ク②粉河ク③御坊ク

〈高校男子〉
▼1回戦
桐蔭 15－12 市和商
粉河 25－20 箕島
新宮 29－28 耐久
海南 20－6 和歌山東
▼2回戦
県和商 18－9 桐蔭
笠田 32－18 粉河
那賀 32－15 新宮
御坊商工 35－11 海南
▼準決勝
県和商 20－13 笠田
那賀 22－17 御坊商工

▼決勝
那賀 20（10—6、10—8）14 県和商

〈高校女子〉
県和商 13—12 新宮
那賀 18—9 貴志川

▼準決勝
粉河 24—5 県和商
御坊商工 29—6 那賀

▼決勝
御坊商工 16（5—6、11—8）14 粉河

〈中学男子〉

▼1回戦
白馬 22—11 湯浅
貴志川 23—7 那賀
金屋 24—4 打田

▼準決勝
岩出 28—11 白馬
貴志川 25—11 金屋

▼決勝
岩出 26（14—5、12—6）11 貴志川

〈中学女子〉

▼1回戦
金屋 14—5 粉河
貴志川 33—8 打田
桃山 8—2 那賀

▼準決勝
岩出 23—3 金屋
貴志川 16—10 桃山

▼決勝
岩出 14（9—1、5—3）4 貴志川

第12回山形県春季選手権

（4月27、29日／日大山形高）

〈男子〉

▼1回戦
新庄ク 26—8 東根工高
山形工A 18—13 寒河江高
山形工B 13—7 日大山形高
新庄工高 25—14 山形東高

▼2回戦
山形大 25—15 新庄ク
山形工A 14—12 真室川高
山形工B 12—0 東根球友会
真室川高OB 17—13 新庄工高

▼準決勝
山形大 19—11 山形工A
真室川高OB 27—6 山形工B

▼決勝
真室川高OB 16（7—7、9—7）14 山形大

〈女子〉

▼1回戦
日大山形高 25—3 竹田女高
山形大 25—9 米沢女高

▼決勝
山形大 17（4—5、13—7）12 日大山形高

第15回三重県中学生選手権

（4月27、29日／津東高、西笹川中）

〈男子〉

▼1回戦
西朝明 28—7 東員第一
白子 19—14 東員第二

▼2回戦
亀山 27—7 内部
西笹川 35—6 南
菰野 19—11 西朝明
明和 14—8 白子

▼準決勝
亀山 26—8 菰野
西笹川 17—9 明和

▼決勝
西笹川 18（8—7、10—4）11 亀山

〈女子〉

▼1回戦
羽津 キケン 白子

▼2回戦
朝明 41—8 阿山
笹川 15—4 大安
亀山 45—1 三雲
菰野 キケン 桔梗が丘
西朝明 28—7 拓植
東員第二 16—12 南
北 16—9 明和
西笹川 18—1 羽津

▼3回戦
朝明 11—9 笹川
亀山 7—6 菰野
西朝明 14—6 東員第二

▼準決勝
朝明 8—5 亀山
西笹川 11—7 西朝明

▼決勝
西笹川 13（4—5、9—2）7 朝明

香川県中学生大会

（4月27、29日／香川一中）

〈男子〉

▼1回戦
桜町 25—11 勝賀

▼2回戦
香川東 29—10 桜町
古高松 24—10 光洋
山田 20—13 紫雲
香川一 25—6 木太

▼準決勝
香川東 16—9 古高松
香川一 18—7 山田

▼決勝
香川一 19（9—3、10—9）12 香川東

〈女子〉

▼1回戦
香川一 18—4 紫雲

▼2回戦
山田 10—5 香川一
古高松 11—5 木太
香川東 15—1 光洋
塩江 19—6 桜町

▼準決勝
山田 9—4 古高松
香川東 6—3 塩江

▼決勝
香川東 11（3—3、6—6、1—0、1—0）9 山田

奈良県高校春季選手権

（4月29、5月3、4日／生駒市総合公園体育館）

〈男子〉

▼1回戦
生駒 11—8 東大寺

▼2回戦
添上 20—8 生駒
畝傍 17—11 十津川
正強 28—1 桜井商
上牧 20—13 富雄
橿原 17—12 天理
奈良工 21—11 片桐
郡山 18—17 一条
奈良 23—4 広陵

▼3回戦
添上 25—14 畝傍
上牧 13—8 正強
橿原 18—10 奈良工
奈良 14—13 郡山

▼準決勝
添上 30—9 上牧
橿原 13—10 奈良

▼決勝
添上 12（10—1、12—6）7 橿原

〈女子〉

▼1回戦

生駒 28－2 上牧
白藤 13－3 樫原
十津川 18－13 一条
▼2回戦
短大付 11－7 富雄
生駒 20－2 片桐
白藤 5－4 郡山
添上 17－6 十津川
▼準決勝
生駒 8－6 短大付
添上 12－5 白藤
▼決勝
生駒 10（3－3、4－4、1－1、2－1）9 添上

第6回京都府高校選手権

（4月20日～5月5日／乙訓高、向陽高）

〈男子〉
▼1回戦
乙訓 24－13 同志社
▼2回戦
東宇治 29－13 乙訓
桃山 25－8 日吉丘
久御山 25－12 城南
西宇治 17－14 洛水
田辺 22－12 平安
東山 23－12 南八幡
堀川 22－14 洛北
向陽 21－15 桂
京都西 13－12 東稜
京都商 25－23 城陽
北稜 20－11 洛星
鴨沂 25－24 洛陽工
木津 29－15 伏見工
洛東 22－12 西乙訓
大谷 25－13 嵯峨野
▼3回戦
北嵯峨 40－11 洛西
東宇治 22－17 桃山
西宇治 23－10 久御山
田辺 15－7 東山
向陽 29－7 堀川
京都商 24－23 京都西
鴨沂 16－11 北稜
木津 17－14 洛東
北嵯峨 25－21 大谷
▼準々決勝
東宇治 19－18 西宇治
向陽 20－16 田辺
京都商 27－12 鴨沂
北嵯峨 33－12 木津
▼準決勝
東宇治 31－15 向陽
北嵯峨 31－13 京都商
▼決勝
東宇治 20（8－9、12－9）18 北嵯峨
※東宇治は5年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
西京商 15－11 日吉丘
西山 16－7 北稜
乙訓 22－4 洛北
山城 7－5 洛東
田辺 28－2 城南
嵯峨野 15－5 久御山
洛西 17－8 西乙訓
南八幡 12－9 精華
西宇治 32－8 鴨沂
洛水 16－11 桃山
光華 12－10 北嵯峨
京都女 13－11 東稜
桂 10－8 塔南
▼2回戦
東宇治 32－3 西京商
西山 17－14 乙訓
田辺 17－9 山城
明徳商 14－2 嵯峨野
洛西 26－5 南八幡
洛水 13－11 西宇治
京都女 19－12 光華
向陽 29－6 桂
▼準々決勝
東宇治 30－11 西山
明徳商 13－12 田辺
洛水 17－14 洛西
向陽 21－9 京都女
▼準決勝
東宇治 31－8 明徳商
向陽 18－14 洛水
▼決勝
東宇治 16（7－3、9－4）7 向陽

埼玉県高校関東大会第二次予選

（5月2、3、4、10、11日／熊谷女子高、川口工高）

〈男子〉
▼1回戦
浦和学院 33－14 西武台
朝霞 20－16 筑波大坂戸
大宮南 17－14 大宮北
浦和西 41－14 上尾南
城西川越 31－8 桶川西
春日部共栄 18－9 庄和
川口東 18－16 戸田
川口工 38－16 草加東
川口北 18－15 伊奈学園
上尾東 28－17 岩槻
埼玉第一 24－19 城北埼玉
川口青陵 29－14 志木
埼玉栄 19－14 春日部工
浦和南 40－9 所沢北
越谷南 34－13 科学技術
浦和実 43－3 聖望
▼2回戦
浦和学院 40－19 朝霞
浦和西 23－19 大宮南
城西川越 33－19 春日部共栄
川口工 31－16 川口東
川口北 26－13 上尾東
川口青陵 31－16 埼玉第一
浦和南 19－18 埼玉栄
浦和実 28－11 越谷南
▼準決勝リーグⅠ組
浦和西 25－24 浦和学院
浦和西 28－21 川口工
浦和西 25－16 城西川越
浦和学院 25－25 川口工
浦和学院 34－15 城西川越
川口工 31－22 城西川越
［順位］①浦和西②浦和学院③川口工④城西川越
▼準決勝リーグⅡ組
浦和実 18－16 川口北
浦和実 23－12 川口青陵
浦和実 22－10 浦和南
川口北 24－20 川口青陵
川口北 28－20 浦和南
川口青陵 27－25 浦和南
［順位］①浦和実②川口北③川口青陵④浦和南
▼3位決定戦
浦和学院 21－20 川口北
▼決勝
浦和実 27（10－6、17－6）12 浦和西
※浦和実は3年連続4回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
川口青陵 18－9 八潮
筑波大坂戸 14－12 越谷南
春日部共栄 22－5 所沢北
行田女 29－9 浦和商
浦和実 14－5 秋草学園
浦和学院 18－5 狭山
上尾東 27－8 熊谷商
三郷北 15－6 伊奈学園
川口女 37－1 大宮南
川口東 17－6 幸手商

庄和 13―11 朝霞
羽生一 31―12 浦和市立
川口北 29―4 志木
春日部女 12―3 大宮武蔵野
草加東 15―15 熊谷女
2PTC1
浦和南 21―15 浦和西
▼2回戦
川口青陵 33―4 筑波大坂戸
春日部共栄 15―15 行田女
5PTC4
浦和実 20―8 浦和学院
三郷北 13―13 上尾東
6PTC5
川口女 29―9 川口東
羽生一 20―5 庄和
川口北 19―12 春日部女
浦和南 21―12 草加東
▼準決勝リーグⅠ組
川口青陵 30―8 三郷北
川口青陵 24―11 浦和実
川口青陵 24―7 春日部共栄
三郷北 10―9 浦和実
三郷北 27―11 春日部共栄
浦和実 20―15 春日部共栄
［順位］①川口青陵②三郷北③浦和実④春日部共栄
▼準決勝リーグⅡ組
川口女 14―10 川口北
川口女 19―13 浦和南
川口女 16―12 羽生一
川口北 13―13 浦和南
川口北 15―13 羽生一
浦和南 18―17 羽生一
［順位］①川口女②川口北③浦和南④羽生一
▼3位決定戦
川口北 9―6 三郷北
▼決勝
川口青陵 22（10―6、12―6）12 川口女
※川口青陵は初優勝。

富山県高校春季選手権

（4月29、5月3、4日／高岡向陵高校）

〈男子〉

▼1回戦
新湊 19―17 水橋
八尾 18―13 富山東
雄山 15―10 富山高専
呉羽 32―6 高朋
伏木 20―6 高岡南
富山 29―15 二上工
▼2回戦
高岡向陵 42―9 新湊
富山商 25―24 富山南
八尾 32―10 富山工
高岡 37―7 雄山
高岡商 21―13 呉羽
伏木 8―5 富山中部
小杉 10―9 大沢野工
氷見 38―14 富山
▼3回戦
高岡向陵 41―10 富山商
高岡 21―16 八尾
高岡商 30―18 伏木
氷見 36―7 小杉
▼準決勝
高岡向陵 20―17 高岡
氷見 26―23 高岡商
▼決勝
高岡向陵 20（9―9、11―6）15 氷見
※高岡向陵は2年連続4回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
雄山 13―7 富山北部
高岡女 24―7 伏木
高岡向陵 18―7 高岡第一
高岡 11―2 小杉
▼2回戦
新湊 5―4 富山女短付
有磯 23―3 雄山
富山女 15―8 高岡女
高岡向陵 26―1 高岡
高岡商 31―0 新湊
▼準決勝
有磯 20―2 富山女
高岡商 28―9 高岡向陵
▼決勝
高岡商 17（9―6、8―6）12 有磯
※高岡商は2年ぶり4回目の優勝。

富山県春季選手権

（4月29日、5月3、4日／高岡向陵高）

〈一般男子〉

▼1回戦
富山大 23―22 八尾ク
射水ク 32―21 二上ク
向陵ク 27―17 砺波ク
▼2回戦
氷見ク 27―23 富山大
想球会 30―13 北嶺会
西部ク キケン 射水ク
教員 29―12 向陵ク
▼準決勝
氷見ク 29―23 想球会
教員 39―19 西部ク
▼決勝
教員 40（22―13、18―11）24 氷見ク

〈女子〉

▼1回戦
桜球会 37―10 砺波ク
想球会 20―16 富山大
▼決勝
想球会 18（11―5、7―8）13 桜球会

第36回青森県高校春季選手権

（5月10、11日／三本木高）

〈男子〉

▼1回戦
今別 17―10 弘前南
青森東 26―7 七戸
十和田工 22―15 青森南
三本木 27―13 山田
柏木農 28―21 野辺地横浜
▼2回戦
野辺地 31―12 今別
青森東 18―17 十和田工
三本木 22―15 青森
青森商 32―19 柏木農
▼準決勝
野辺地 22―10 青森東
青森商 27―14 三本木
▼決勝
青森商 18（8―8、10―8）16 野辺地
※青森商は2年連続6回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
青森西 35―4 三本木
今別 22―4 七戸
青森商 21―10 青森中央
野辺地 25―7 青森東
▼準決勝
青森西 24―5 今別
野辺地 7―6 青森商
▼決勝
青森西 19（7―5、12―9）14 野辺地
※青森西は2年連続14回目の優勝。

第2次大戦中のハンドボール活動体験をお寄せ下さい

「日本ハンドボール史」編集委員会

約1年間の検討と準備を経て日本協会創立50周年記念事業の一つ「日本ハンドボール史」の編集作業は、来春2月の〝完成〟を目指して、現在、極めて順調に進んでいます。

この1年、本誌を通じての呼びかけをはじめ、全国関係者のご協力によって、次々と「これまでの50年」の情報が編集委員会あて送られて来ました。

おそらく、当初の予定だった500ページの集大成案を大きく上廻り編集委員会の考えていた以上のスケールになる可能性も出て来ています。

それだけ、ぼう大な資料と情報のなかで、この1年、まったく編集委員会が、八方手をつくしながら「白紙」の状態のまま過ぎている事項があります。

それは『第2次世界大戦中のハンドボール活動』です。

昭和18年12月5日、東京・明治神宮外苑競技場で行なわれた枢軸国交歓大会（在日ドイツ人選抜対全日本）のデータを最後に、まったくといってよいほど〝動き〟をつかんでいません。

戦火が激しく、ハンドボールどころではなかった、活動そのものも空白状態なのだから、資料を求めるほうがムリ、という声もあるのですが、果たして、そうでしょうか。

戦時中も、女子専門学校の体育として、競技会はともかく、残された数少ないスポーツに数えられていた、ともいわれますし、大学、中学（旧制）のハンドボール部員たちは、この時期、1人も退部する人はいなかった、という話も伝えられています。

しかし、それらを裏付ける資料情報は、いまのところ一片もないのです。

そこで、本誌を通じ、全国の関係者、読者の皆さまに、改めて、次のような資料、原稿を求めたいと思います。

◇1・第2次世界大戦中のハンドボール活動

昭和18年夏から昭和20年夏までの2年間、どのような資料、体験でも結構ですから、編集委員会までお寄せ下さい。

応召されていくチームメートのため、ささやかに開いた部内の壮行試合の模様でも、部の用具（ボール・ネットなど）を、どのようにして、平和の日が来るまで保管しようとされたか、などの〝思い出〟を是非、お寄せ下さい。

◇2・昭和18年9月から昭和20年7月までの試合記録（除く「枢軸国交歓球技会」）

おそらく大規模な〝大会〟など開かれなかったにちがいありません。

しかし、心のスミのどこかに、このような試合をした記憶があるといった程度の情報でも結構です。

◇3・昭和20年9月から12月までのハンドボール活動記録

驚くことに、昭和21年1月にハンドボール界は、西宮で一般男子の「東西対抗」を開き、その前座に高等女学校（豊中高女対茨木高女）と中学男子（天王寺中学対北野中学）の試合を行なっているのです。

当然のことながら、終戦直後の4ケ月に、なんらかの活動があったのです。

東京では、12月2日に一高と日体（男子）が試合をした、といわれます。

関西でも、東海でも、新しい息吹き、たくましい立ち直りがあったことが想像されます。

ハンドボール界に限らず、第2次世界大戦中の日本スポーツ界の動きを伝える資料は、極めて少なく、この〝空白〟は、当時の厳しさを物語るものであります。

それだけに「日本ハンドボール史」は、なにかをつかみたいのです。

どのような用紙でも、結構です。書きかたにも制約はありません。今夏7月20日までに、是非々々、お報せ下さるよう重ねて、お願いいたします。

◇

全般に昭和21年～昭和25年の資料、記録が不足勝ちです。

この時期のプログラムや試合記録など（スコア、新聞、雑誌記事）、写真をお持ちのかたの提供（コピーも可）を期待しています。

当時の物資不足を考えると、この期間のデータは、関係者各位の個人的なメモが唯一の頼りかもしれません。

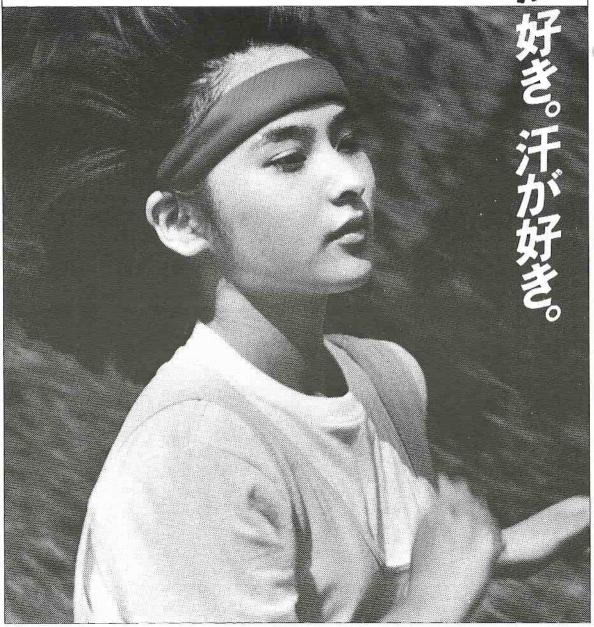
このようなモノが役に立つだろうか、といった内容でも、一応、編集委員会あて、お報せいただけませんでしょうか。

また、昭和20年代初期に活動された女性の原稿を募りたいと思います。

ハンドボールに親しまれた動機、当時の女子の試合の状況などを、今夏7月15日までにお寄せ下さい（用紙、字数自由。ただし横書きで……）。

編集作業も、いよいよ終盤に入ります。

あの時このようなことが、といった、あとからの思い出しを最少限に食い止めよう、というのが、編集委員全員の気持ちです。

すばらしい「日本ハンドボール史」を作りあげるために、すばらしい情報の提供を心待ちにしています。

「日本ハンドボール史」

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五二号
昭和四十年六月七　　昭和六十一年五月二十五日　印刷
第三種郵便物認可　昭和六十一年六月　一　日　発行
東京都渋谷　　一一一一一　編集兼
電話　代表　　二三六一　発行人　大野金一
振替　東京　六一五八三四八番
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)